

トマト葉かび病抵抗性品種で発生する葉かび病の防除は早めの薬剤散布が有効である

トマト葉かび病抵抗性品種（抵抗性遺伝子 *Cf-9*）に発生する葉かび病は、感受性品種と同様に既存の薬剤で防除することができ、防除時期が早いほど効果は高い。

農業研究センター生産環境研究所病害虫研究室（担当者：森山美穂）

研究のねらい

県内のトマト栽培では、葉かび病に対する耕種的防除法として抵抗性遺伝子 *Cf-9* を持つ葉かび病抵抗性品種（以下、*Cf-9* 品種）が広く栽培されている。しかし、近年、*Cf-9* 品種においても葉かび病が発生し、生産現場からは早急に *Cf-9* 品種における葉かび病の防除対策の確立が要望されている。そこで、*Cf-9* 品種で発生した葉かび病に対する薬剤の効果を確認するとともに防除技術を確立する。

研究の成果

1. *Cf-9* 品種に発生する葉かび病に対して、葉かび病に登録のある既存の薬剤は感受性品種の場合と同様に防除効果がある（図 1）。
2. *Cf-9* 品種に発生する葉かび病の防除は、感受性品種の場合と同様に早い時期から薬剤防除を行うほど効果が高い（図 1）。
3. 発病後の葉かび病防除では、防除する前に感染が成立し葉内に潜伏している（潜伏期間は約 2 週間）菌があるため、薬剤の散布後にもしばらくの間は病勢が進展する可能性がある（図 1 の※）。

普及上の留意点

- 1 県内で発生している葉かび病菌の薬剤感受性については、平成 26 年度農業研究成果情報 (No.680) を参考にする。
- 2 病斑が類似しているトマトすすかび病は、葉かび病抵抗性遺伝子の有無に係わらず発生する。すすかび病の発生消長および防除については、平成 26 年度農業研究成果情報 (No.681) を参考にする。
- 3 農薬の使用は、最新の登録内容を確認し、記載事項を厳守して行う。

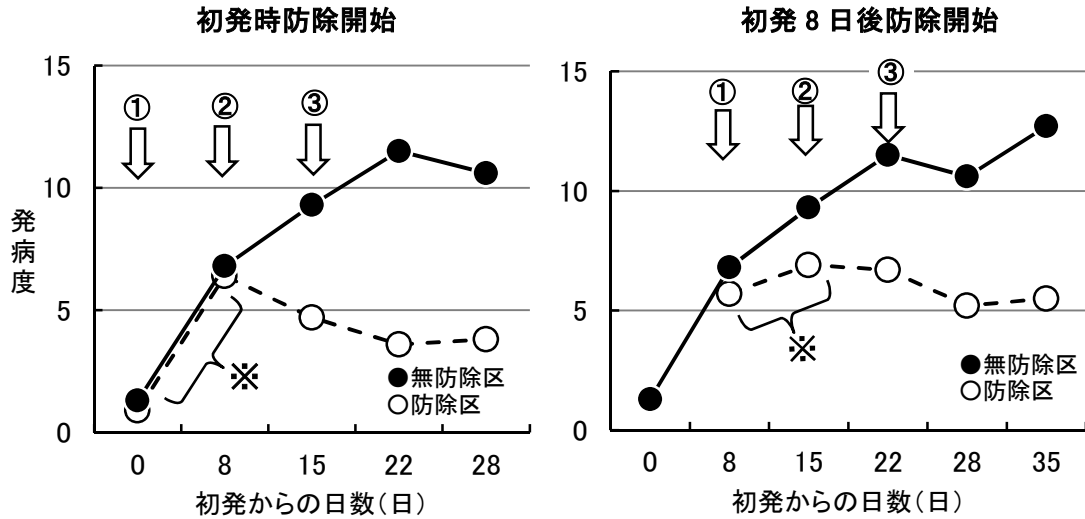


図 1 葉かび病新レースに対する薬剤散布の防除効果

試験場所：熊本県農業研究センター生産環境研究所ビニルハウス

定植：平成 25 年 11 月 11 日 品種：アニモ TY-12 (葉かび病抵抗性遺伝子 Cf-9)

接種：平成 25 年 12 月 16 日に葉かび病菌新レースの胞子懸濁液を中位葉に噴霧接種した。防除開始時に発生していた葉かび病菌は、アゾキシストロビンおよびトリフルミゾールに感受性が低下していた。

図中の下向き矢印は、薬剤散布を、矢印上の数字は防除回数と散布月日を示す。

- ① 1 回目散布 ペンチオピラド水和剤 2000 倍 (商品名：アフェットフロアブル)
- ② 2 回目散布 イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤 2000 倍 (商品名：ベルコートフロアブル)
- ③ 3 回目散布 アゾキシストロビン・TPN 水和剤 1000 倍 (商品名：アミスターオプティフロアブル)

図中の※については、成果の 1 を参照。